

キューバ経済の現状と課題

新藤通弘

— キューバ経済の発展段階の史的素描

キューバを説明すれば、フィデルが政府首班であると同時に、反対派のリーダーでもあるということだ — ガブリエル・ガルシア・マルケス

キューバ革命50年の主要指標

項目	単位	1958 (NI)	1984 (GSP)	2008 (GDP)
NI/GSP/GDP*	100万ペソ	1,420	26,052	47,774
一人当たりGSP/GDP	ペソ	208	2,607	4,213
人口	1000人	6,824	10,042	11,236
うち農・牧畜就業者	%	41.5 (1953)	18.3 (1985)	18.3
砂糖生産量	1000トン	6,038	8,206	1,400
農業生産(総生産額の%)	100万ペソ	588.9 (41%)	3,566 (14%)	1,774 (4%)
うち砂糖産業	100万ペソ	330.1 (17%)	1,003 (4%)	—
工業生産額	100万ペソ	659.8 (46%)	11,723 (45%)	5,903 (12%)
貿易収支	100万ペソ	-43.6**	-1,751	-1,987
食料自給率(カロリー)	%	70	47(1985)	42(2005)

(出所) 下記から筆者作成。
 José Luis Rodríguez, *Estrategia del Desarrollo Económico en Cuba*, Editorial de Ciencias Sociales, La Habana, 1990.
 Anuario Estadístico de Cuba 1987, Oficina Nacional de Estadísticas, La Habana, 1988.
 Panorámica Económica y Social de Cuba 2008, Oficina Nacional de Estadísticas, La Habana, 2009.
 Armando Nova Rodríguez, *La Agricultura en Cuba*, Editorial de Ciencias Sociales, La Habana, 2006.
 * キューバは、革命勝利前は、国民所得(NI)概念を、1959-97年までは社会総生産(GSP)概念を使用していたが、1997年から国内総生産(GDP)概念を使用し、統計の一貫性が欠けている。
 ** 1950年代、キューバの貿易収支は、1958年を除き常に黒字であった。

●はじめに

キューバの政治的アクターを見事に表現しているこのガルシア・マルケスの言葉は、音楽のソナタ形式の主題のように、五〇年のキューバ革命史の中で繰り返し現れてくる。一度目は、一九七〇年に砂糖一〇〇〇万トンの目標が未達成となったとき、二度目は、一九八〇年代半ば、キューバ社会での誤りと否定的傾向とたたかう議論をすすめたとき、三度目は、二〇〇五年不正、汚職、勤務規律の弛緩を追究したとき、そして、二〇〇九年三月、若手幹部に対し革命とフィデル・ラウルへの忠誠心の欠如を批判したときに現れた。

また、経済困難に見舞われ、社会に不満が鬱積すると大量出国事件が起り、米国の対キューバ敵視政策が強化され、キューバの国内の改革が抑制される、という主題も繰り返し現れてくる。このことは、一九六〇年代初頭、一九八〇年、一九九四年の大量出国事件で見られた。この二つの主題が絡み合いながら、革命の五〇年が展開されたとみることができる。

現在、キューバ経済は困難を極めている。二〇〇九年の経済成長の見通しは、二〇〇八年末国会で承認された六・五%から、二〇〇九年五月には二・五%に大幅に下方修正されたが、同年七月の共産党中央委員会総会ではさらに一・七%に修正された。しかし、キューバ人エコノミストたちはそれも危ぶんでマイナス成長となるのではないかと憂慮している。

いつたい、キューバは、歴史的にどういう経済建設を歩んできたのであろうか。筆者は、キューバ革命の歴史は、一九五九-六〇年、一九六一-六九年、一九七〇-七九年、一九八〇-八九年、一九九〇-九九九年、二〇〇〇-〇七年、二〇〇八-現在までの七時期に区分できるのではないかと考えている。この時期区分に従いながら、革命五〇年の経済建設を歴史的にたどることによって、現在のキューバ経済の座標軸を定め、今後の経済の発展の道を展望することにした。